第１回　名張市未来のよりよい学校の在り方検討審議会　議事録

１．開催日時	令和８年６月２５日(木)　午後　２時００分　開始 午後　４時００分　終了
２．開催場所	名張市役所２階　庁議室
３．出席委員	園部委員長、福島（良）副委員長、藤本委員、大垣委員、池田委員、福島（由）委員、川原委員、竹内委員、土手川委員、吉原委員、日置委員、松﨑委員、我山委員
４．欠席員	なし
５．事務局	北川市長、西山教育長、要教育次長、鷲阪総務部長、赤根教育総務室長、松田学校教育室長、山村教育総務室係長、橋本教育総務室参事
６．事項	下記のとおり

１．開会

（事務局）定刻となりましたので、ただ今より、第１回名張市未来のよりよい学校のあり方検討審議会を始めさせていただきます。議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます、名張市教育委員会事務局教育総務室長の赤根と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、皆様方には、公私ともお忙しい中、また、お足元の悪い中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

初めに会議の公開について説明いたします。本日の会議は、名張市未来のよりよい学校の在り方検討審議会条例によりまして、会議を公開し、会議の傍聴を認めておりますので、本日の会議を傍聴される方、報道関係者の撮影等について、ご了解をお願いいたします。また、会議録作成のための、録音と会議録の公開について、ご了解いただきますよう、よろしくお願いいたします。それでは、お手元の事項書に沿って進めさせていただきます。着座にて、失礼いたします。

２．委嘱状交付

（事務局）それでは、北川市長より委嘱状を交付させていただきます。なお、日置委員におかれましては市職員でございますので、委嘱状ではなく、任用通知になりますので、後程ご案内させていただきます。

それでは市長が、皆様のお席までまいりますので、お名前をお呼びしましたら、その場でお立ちいただきたいと存じます。市長より委嘱状をお受けいただいた後、ご着席くださいますようお願いいたします。

―委員名簿の順に委嘱状を交付―

３．市長あいさつ

（事務局）それでは、会議に先立ちまして、北川市長からご挨拶を申し上げます。

（市長）皆様。改めまして、こんにちは。名張市長の北川でございます。本日は大変お忙しいところ、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。また、この度、名張市未来のよりよい学校の在り

方検討審議会の委員をご承諾いただきまして、重ねて御礼申し上げたいと思います。少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、目まぐるしく変化する現代社会でございますけれども、子どもたちの育つ環境は大きな変化が生じております。そして、今後もさらに将来の予測が困難な時代に進むと思われます。社会の課題や変化に対応できる人材、未来に向けて、自ら社会を切り開き、創り出していく人材の育成が必要となっており、これからの学校教育は、知識の習得だけではなく、子どもたちが自らの可能性を最大化し、よりよい人生と社会を創り出すための基盤となってまいります。また、名張市では、名張市教育振興基本計画であります、第三次名張市子ども教育ビジョン、これを令和８年の３月に策定をしておりまして、夢を育む子、未来を創る子、心豊かな子をめざすばりっ子の姿とし、その実現に向け、名張市がめざす教育の推進にかかる施策の取組についても示しているところでございます。

名張市においては、名張市だけではないですけれども、少子高齢化に伴い、児童生徒の減少が進んでおり、今後もさらに減少することが予想されております。また、学校施設の老朽化、コミュニティの変化も踏まえ、これから名張市の未来を創る子どもたちの教育環境向上のため、時代に合った望ましい教育環境の構築と、持続可能な学校運営の検討において、委員の皆様方におかれましては、それぞれの専門的な立場から、忌憚のないご意見をいただきたいと思っているところでございます。様々難しい側面もあるとは思いますけれども、それぞれの立場で、様々な観点から、子どもたちにとってどのような学校の形態がいいのか、内容をどうしていくことが望ましいのかなども含めて、これからの名張市のよりよい学校のあり方についてご検討いただくとともに、ご審議をいただければありがたいというふうに思ってございますので、どうぞよろしくお願いを申し上げたいと存じます。

４．委員・職員紹介

（事務局）それでは、本日が初めての会議でございますので、おつけさせていただきました委員の名簿の順に、お名前や所属団体等の自己紹介を、お時間の都合もございますので簡単にお願いしたいと存じます。

―委員名簿の順に次自己紹介―

５．名張市未来のよりよい学校の在り方検討審議会について

（事務局）それでは、名張市未来のよりよい学校の在り方審議会の条例について、ご説明の方をさせていただきたいと思います。資料の方、名張市未来のよりよい学校の在り方検討審議会条例と書かれたものをご覧いただければと思います。

この委員会につきましては、市長の諮問に応じまして、政策に係る一定の判断であったり、結論であったり、方向性を示しますことから、執行機関の附属機関に該当いたしますため、地方自治法の規定に基づきまして、本年４月１日施行で条例を制定させていただいたものでございます。設置の目的でございますが、名張市立小中学校における学びの充実に向けた、望ましい教育環境の整備について調査し、審議することを目的としております。所掌事務でございますが、この審議会につきましては、市長の諮問に応じまして、条例の第２条に掲げております事項につきまして、調査し、審議するものとしております。

次に組織でございますが、審議会は委員１４名以内で組織のほうをさせていただきまして、条例の第３条第２項に掲げる方々、本日名簿の皆様方ですけれども、こちらのメンバーで構成の方をさせていただ

いております。委員の任期でございますが、本日、北川市長より委属の方をさせていただきまして、審議会から答申の方を提出していただくまでの期間、概ねでございますけれども、約１年半を予定しております。本日、ご出席の皆様方におかれましては、何かとご多用の中、審議会の委員にご就任いただきましたこと、改めて御礼申し上げます。この後、議事に入りましたら、各々の立場、視点からご意見等いただきまして、議論の方を深めていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ここで、会議の成立の報告をさせていただきます。ただ今、委員の出席人数でございますけれども、１３名でございます。従いまして、名張市未来のよりよい学校の在り方検討審議会条例第６条の規定により、定足数、委員の過半数以上に達しておりますので、会議が成立することをご報告申し上げます。

６．委員長・副委員長の選出

（事務局）それでは続きまして、委員長及び副委員長の選出に移らせていただきます。
こちらにつきましては、事務局案を先にお伝えさせていただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

（委員複数人）はい、お願いします。

（事務局）ありがとうございます。それでは、事務局の方から、委員長に三重大学教育学部准教授、園部委員、副委員長に名張中学校校長、福島委員を提案させていただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

（委員複数人）はい。

（事務局）ありがとうございます。

7. 委員長、副委員長あいさつ

（事務局）それでは、委員長、副委員長からご挨拶をいただきたいと存じます。それでは園部委員長、よろしくお願いいたします。

（委員長）失礼いたします。改めまして、三重大学よりまいりました園部と申します。私は、普段、大学の教育学部の方で教員養成の仕事をしておりまして、そうした立場と、私事で恐縮ですが今年から、小学校１年生になった息子、実はお腹に、８ヶ月になった子どもがお腹の中におります。自分が大学で勤めている立場と、保護者という立場、或いはそこの地域で生活していく立場、いろいろな立場からここに参加させていただきたいと思っております。私はもともと三重県の出身で、松阪市で育ちました。ちょっとしばらくの間、大学の方で外に出ていたんですけれども１０年ほど前に戻ってきて、三重大学で仕事をしております。名張市には友だちがたくさん住んでいまして、時々、高校のときとかよく遊びに来ていたことを思い出します。わからないこともたくさんあると思うんですけれども、精一杯努めますのでどうかよろしくお願いいたします。

（副委員長）失礼します。改めまして、名張中学校校長の福島でございます。私たちは市内の小中学校の校長会の代表として、隣に居ていただきます名張小学校の福島校長と出席させていただくことになりました。私は行政の方も、教育委員会の事務局でトータル１３年、お世話になりまして、現場に出て２年目ということで、学校の代表として、今後の名張市の学校の在り方について、皆さん方と一緒に考えさせていただき、大変ありがたい機会をいただいたと思っております。園部委員長の補佐ということで、スムーズな運営に協力をしてまいりたいと思います。皆さんのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）ありがとうございました。

８．諮問

（事務局）それでは、市長より諮問をさせていただきます。園部委員長、ご起立いただき前の方へお願いいたします。

―市長から委員長へ諮問書を手渡す―

（事務局）ありがとうございました。市長におかれましては次の公務がございますので、退席させていただきます。ありがとうございました。

（市長）皆さん本当に、ざっくばらんに、忌憚のない意見を遠慮なさらずに、ご自分の思ってらっしゃることをどんどん出していただいて、議論を深めていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。お世話になります。では失礼します。

９．協議事項

（事務局）それでは、協議事項に移ります。園部委員長は、前の中央の席の方へ、移動の方をお願いいたします。ここからは、進行を委員長の園部委員にお願いさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

（委員長）ありがとうございます。よろしくお願いいたします。１時間半ほどと聞いているので、４時に終わる形になるかと存じます。事項書に沿って進めさせていただきます。協議事項（１）の方に入らせていただきます。（１）名張市未来のよりよい学校の在り方の基本計画について、事務局からよろしくお願いいたします。

（１）名張市未来のよりよい学校の在り方基本計画について

（事務局）資料１について説明

（委員長）ありがとうございます。ただ今の件について、ご意見ご質問等がございましたらお願いいたします。

（委員）議論の視点のところの４番。市立小中学校と他の公共施設の複合化、共用化、または集約化についてと書いていただいているんですけれども、これは具体的にどういうことを考えているんですか。

（事務局）はい。失礼いたします。学校の今後の在り方を考えていく際に、いろいろな検討の方向性というのがありまして、当然、学校の統廃合ということだけではなく、例えばその現在の学校を残していくという話になった場合は、その学校のデメリットを最小化させて、メリットを最大化させていくような工夫をしながら、学校を残していくというような考え方も文科省の方から出ております。例えば、具体的に言いますと、学校があって、そこに空き教室が出てくる。学校を残すのであれば、その空き教室を活用してですね、その学童保育であったり、そこに保育所を融合させたりとかですね、すべての施設を維持していくということが、なかなか今後困難になる中で、学校というのを地域の拠点にして、集約して学校を残していくというような考え方ということが、文科省の方から出ております。なので、単に人数が減っている、学校も老朽化している、だから統廃合をしていくというだけの視点ではなくて、いやいや、ここの学校というのは地域を大事にしていきたいという話になったときに、学校はどういう残し方ができるのだろうというところで、複合化であったり、共用化であったり、集約化というような考えが出てくるというふうに考えてございます。こちらにつきましては、市の方で公共施設がたくさんありますので、それを再配置していくというような計画も出てきている中で、学校の空きスペースとか、そういうところも有効活用していこうかというような話が出てきますので、今日、議論をいただくところではないんですけれども、後々の議論の中で、そういうことも一緒に含めた中で考えていただけたら、というふうに考えてございます。

（委員長）ありがとうございます。よろしかったでしょうか。

（委員）はい。ありがとうございます。

（委員長）その他、ご意見ご質問等ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。今後もこの後、具体的なところに入っていくと思いますので、その中で、皆様それぞれの立場や、視点からご意見をいただければと思っております。５つの視点が示されたということで、次に進めさせていただきます。

（２）名張市の小中学校の現状と今後の課題について

（事務局）資料２について説明

（委員長）名張市の小中学校の現状と今後の課題について説明がありましたが、ただ今の件について、ご意見ご質問等いかがでしょうか。

（委員）参考までに聞きたいんですが。小学校の１クラス当たりの人数、中学校の１クラスあたりの人数はどれぐらいなんですか。中学校と小学校のクラスが半分以下になっていますよね。

（事務局）クラスによって人数は違ってくるので、３０人近くいるクラスもありますし、本当にもう少ない学校、すずらん台小学校、錦生赤目小学校、薦原小学校、箕曲小学校とかは２０人弱、１０人少しのクラスもあります。

（委員）それは小学校ですね。中学校は？

（事務局）中学校は今のところ、２０何人とか、３０何人とかがほとんどです。２０人を切っているというところはないかと思います。

（委員）中学校の１クラスの人数が、２０何人ということですか。

（事務局）学校によって多少は違うのですけれども。

（委員）小学校は１２６クラスあるわけですよね。中学校は、５５クラスありますよね。中学校で１クラス２０人ぐらいだったら、少し少ないのかなと。もうちょっと多くなるのかなという感じがするのですけど、半分以下になっているので。それだけ小学校の 1 クラス当たりの人数が、少ないということですね。小学校は圧倒的に少ないのか。

（事務局）中学校は３０人前後いると思いますが、小学校はやはり地域によって、１クラスの人数は少ないです。

（委員）ごめんなさい。言い方が悪いかもしれないけれども、山間部の方とか、そういったところになってくると、小学校の１クラスは例えば１０人ぐらいとかなのか。

（事務局）ある小学校では１０人を切っている学年もあります。すべての学年が１０人を切っているわけではないんですけれども、やはり単学級の学校でも、ある学年だけ少ないということもあるので、小学校の方が基本的に１クラスの人数が少ないです。

（委員）そういうふうに少ないから、将来、ある地域やったら小学校が学年で１クラスを保てなくなるとか、そういうことがもう出てくるということですね。

（事務局）はい。複式になってきます。

（委員）分かりました。

（委員長）ありがとうございました。他にどうでしょうか。

（委員）すいません。まず、整理をお願いしたいと思うのは、子どもを中心において教育を第１に考える

というのが大前提で、私は経済団体の代表なので、経済合理性から言えば、学校はできるだけ少ない方がいいというふうには思うんですけれども、おそらくそういうことを議論する場ではないと思っています。子どもがきちんとした教育を受けるためには、１クラス何人ぐらいが理想で、しかも、先ほども南中学校、つつじが丘小学校のお話もありましたけど、９年間同じメンバーでいることが、不合理なのか、別に不合理でないのか、そのあたりが、きちんと整理されないと、学校規模を考えるときに、一旦は理想というのがこういうものなのかということを示していただいて、それに向けて、そしたらどういうふうに統廃合、何をするのか、或いは、少なくても支障がないということであれば、今のまま残す方法もあります。市の財政がついていければという前提ですけれども。

それと、その人口集計ですけれども、実はこれまで三重県の高校の検討委員会で人数を見たんですけども。実は、令和３年生まれから令和４年生まれが、ガタンと落ちています。おそらく、コロナで結婚数が減って、出生数が減った結果だと思います。令和６年生まれは６８１人と予想されています。伊賀地域で。おそらく名張で生まれた方は３０１人、伊賀で生まれた方が３８０人だと思います。そうするとまず、将来、１８年まではこれぐらいだとは言いながら、今、現在、生まれてくる子どもの数がずっと維持されたとしても９年間で２，７００人なので、そこの捉え方というのが少し、この数字を足すとそれを超えるので３，０００人以上になっているので、分かっている数で、令和７年に生まれた子は３２８人だと思います。どのぐらいの流出、或いは流入があるかわかりませんけど、確かな数字でもう小学校に入ってくる最大数というのは、だいたいわかってくるのではないのかな。というのが１つと、先ほど、一番大事なのは、最初に申し上げた、どこを目指すのかというあたりがはっきりしないと、議論があっちにいったり、こっちにいったりするのではないのかなというふうに思いました。

（委員長）ありがとうございます。はい、お願いします。

（委員）今のご意見にも関連するんですけれども、１クラスの人数の定数、学級定数、昔だと、私が赴任した頃だと、１学級４５人であったけれど、４０人になって、３５人になって、三重県は特別に低学年から３０人学級の導入とか、その辺の基準がどうなっているかをちょっと確認したいです。それから、今のご意見もそうですけれども、適正規模の考え方で大規模校と小規模校でもメリットとデメリットがあると示されていると思うので、一応基準として、適正規模というのは１学年何クラスぐらいというところを国が示されていると思うので、その辺がどうなっているのか教えていただけたらと思います。

（委員長）ありがとうございます。今後のスケジュールを見る感じでいきますと、第２回のところに、望ましい学校・学級規模、学校配置等という議題が入っていますが、もし今のご質問に関して事務局から回答がありましたら、お願いします。

（事務局）国における学校規模の標準では、小学校では、１学年２クラス以上３クラス以下、中学校では、４クラス以上６クラス以下とされています。また、学級の人数においては、小学校では、３５人以下、中学校では４０人以下ということで、今のところなっています。

（委員長）ありがとうございます。

（委員）小学校もすべて３０人ですか。

（事務局）低学年は３０人です。

（副委員長）小学校は３５人学級で、低学年１・２年生が３０人ですね。中学校につきましては、中１が３５人。中２、中３が４０人ということで、年度ごとに段階的に３５人にしていくということで、そこに三重県で加配をつけていただいて、中２については３５人で、今、成立しているところです。

（委員長）ありがとうございます。よろしかったでしょうか。

（委員）報告いただいて、感想ですけれども、前の何かの会議で言わせてもらったかもしれませんが、２ページの平成２０年に初めて長瀬小学校は比奈知小学校と統合したということで、長瀬小学校が私の母校ですもので、その頃は１・２年複式、３・４年複式、５・６年複式と非常に少なかったんです。その時、たまたま私もちょっと教育委員会におらしてもらったので、地元にその学校がなくなりますよという、こういう会議の総意を持って行かせてもらったという非常につらかった覚えがあるんです。その時の保護者の方、地域住民の方が、今でも覚えていますけれども、井の中の蛙になったら子どもがかわいそうだという、本当に小規模校で楽しく先生とも地域とも一体になって、学校運営もなされておって、子どもらが学校を楽しみに行っておったんです。結局、保護者の方も地域の方も学校がなくなるのは本当につらいんやけれども、やはり子どもの将来のことを考えていこうということで、合意をしていただいて、ということで今でも記憶があるんです。ただ、教育委員会におらせていただいて、そのあとの国津小とか滝之原小とか、よく似た複式を抱えた学校があったんですけども、一方で他の学校の規模が大きかったんです、名張は。先ほどもちょっと言われましたけども、北中、小学校では梅が丘小がしばらくの間、県下で一番大きい大規模校が名張にあったと。大規模がいいわけではないんですけれども、いろいろ課題もあるんですけれども。そういう時だったもので、複式のある学校は、どうしてもどこかの学校と一緒にということになっていくのですけれども。今、見せていただいて6ページのこの10年後の令和１８年に、複式が２校であとの学校も９校は単学級でクラス替えがないと。また、つつじが丘小と南中学校においては、９年間、義務教育クラス替えが行なえない可能性もあるわけですね。クラス替えが良い悪いは、いろいろな議論があると思うんですけれども。やはり人間関係がうまくいったり、最近、またいろいろな課題がありますもので、いじめであったりとか、不登校だとか、いろいろな難しいところで、固定化された中でずっといくということが、子どもにとってはすごく負担になる場合もあるだろうし、そういったことを考えていけば、クラス替えがあるということが望ましい形だなと思うんですけれども、ほとんどの学校がもう難しいということは、非常に名張が少子化・少子化と言われていますけれども、こうやって数字を見せていただいたら、本当に危機感を感じました。これは感想ですけど、そのあたりが全て統廃合という形になってきたらどうしていくんだというのは、非常に大きな問題だなと思いました。

（委員長）ありがとうございます。お願いいたします。

（委員）過去のデータは、現実に数字が出ているから分かると思うんですが。令和８年から令和１８年の推移については、これは誰がどういう根拠で出された数字なんですか。どうやって計算された結果、出てきた数字なんですか。

（事務局）令和１４年度までにおいては、その地域で生まれた子どもの数という形で出しています。令和１５年以降につきましては、令和７年度に生まれた子どもの数を見込んで出しているという形になるので、もしかしたら令和１５年以降につきましては、すごく子どもが増えるとか、減るというようなところは若干あるかもしれないので、見込みという形になります。

（委員）ということは、令和１４年までは大体これが間違いのない数字であって、令和１５年以降は予想ということですか。

（事務局）見込みというかたちになります。

（委員）なるほど。分かりました。

（委員長）はい、お願いします。

（委員）今、子どもの数に関して話があがっているんですけれども。参考までに、名張市の人口との兼ね合いもあると思うので、その辺の話をちょっと教えてもらいたい。子どもの数が減少ということは、名張市の人口も減っているんじゃないかと思うんですか、どれくらい減っているのか。

（事務局）詳しい数値はわかりませんが、名張市の人口も、もちろん減っています。詳しい数値は資料がないので分からないですが。

（委員）バブルの時の平成３年度、児童生徒数が一番増えていた、１万人を超えていた時期がありました。その時の名張市の人口はどれぐらい。現在が７万人だけども。

（委員）一番多かったときに８万３，０００人くらい、今は、７万６，０００人くらいかと。

（事務局）子どものピークと人口のピークというのは、若干ずれはあるかもしれないですけれども、全体の人口としては８万３，０００人くらいかと。

（委員）１０年後には、１万人以上の人口が減るということですよね。毎年1,000人以上減っている。

（委員）ただ、外国人の方が１００人ずつぐらい増えていて、日本人だけでいうと１，２００人ぐらい減ったということになりますかね。

（委員長）ありがとうございます。なんか聞くたびに、すごい厳しさを感じるんですけれども、他にご質問等いかがでしょうか。ご自身の今のお立場で、数字は今見させていただいてるんですけれども、数字では見えてこない学校や子どもたちの現状ですとか、課題に感じておられることなどがあったら、ぜひご共有いただけると嬉しいですが、いかがでしょうか。

（委員）人口の偏在というのが多分起こっている可能性があるんですよ。同じ名張市の中で。やはり、周辺部から中心部の方は、あまり人口が減っていない。希央台という地域は、小学校の人数も減ってない。将来的にも減る予想もあんまり出てない。現実的にやはり集合住宅がまだ建っていますし、一時は集合住宅の建設ラッシュですごく人口が増えました。区画整理がされて新しく中心部、そこを再整備することで、中心部開発されたところなんですけれども。やはりそういったところに集合住宅が建つと、利便性がいい、いろいろな買い物する施設だったりとか、いろいろな病院が近いとか。名張市の中でもそういう人口の偏在が講じているんではないかなと思うんですけれども。その辺りが生徒数にも当然影響してくるのかな。若い人がたくさん集合住宅に移ってきておられる、特に希央台、地域で子どもたちをどう見守っていくかとか、或いは、逆に言ったら、そういった集合住宅の方が、地域のこういうまちづくりに無関心で、子どもたちの子育てにもあんまり関わってこないとか、そういういろいろな問題が、地域的にはあることはあるんですけれども。

（委員長）ありがとうございます。ぜひ、ご自身のお立場からお感じのことを教えていただきたいと思っております。いかがでしょうか。お願いします。

（委員）２ページ目を拝見したときに、通常の学級は減っているにもかかわらず、一方で特別支援学級の数は増加傾向にあるという点がちょっと気になりまして。これは、昔だったら、ちょっと無理強いしてでも通常学級に行っていた子がいたのか、それとも、実際に支援が必要な子どもが増えているのか、何かその辺りの現状をお聞きしたいんですけれども。

（事務局）ありがとうございます。実際にその特別な支援が必要な子どもが増えているということもあるんですけれども、それだけじゃなくて、この特別支援学級が増えている理由としましては、その発達障がいなどの概念とかが社会に浸透したり、早期発見できたりとか、適切な支援というのがすごく重視されるようになったということがあると思います。社会的な認知とか、その診断技術の向上であったり、今までは見過ごされてきた特性とかが、早くに病院とかで発見されたり、診断されたりするようになってきたこと、そして、発達障がいには、自閉症とかADHD、学習障がいとかあるんですけれども、そういうことの社会的理解が広まったところもあると思います。また、教職員や保護者の意識ということで、みんなと同じように行動することを求めるのではなくて、一人ひとりの特性や学習のニーズに応じた個別最適な教育を重視するというふうな考え方に変わってきたので、保護者や教員の特別支援教育の理解も進んでいったということもあるのかなとは思います。

（委員）ありがとうございます。令和８年だと５３学級あるということなんですけど、これは各学校に学年別で３クラスとかあるのか、それとも発達の状況に応じたクラスがあるのか、どんな感じで特別支援

学級が編成されているんでしょうか。
（事務局）通常の学級は、だいたい３５人で１クラス。特別支援学級は、８人で１クラスということになっています。特別支援学級には、知的、自閉症、情緒、肢体不自由というクラスの種類もありまして、それによっても違うんですけれども。１つの学年がすべて同じ学年の児童生徒であるとは限られてはいないです。小学校１４校、中学校５校あるんですけれども、どこの学校にも特別支援学級はあるんですけれども、学年別というクラス分けではないです。

（委員）ありがとうございます。

（委員長）よろしかったですか。ありがとうございます。その他、ご質問やご自身の立場から感じられる現状ですとか、課題などもご共有いただければと思います。お願いします。

（委員）先ほどお聞きしましたこの推定に関して考えるとですね、確実な数字になるだろうというのが令和１４年までの６年間。ということは、この６年間の予想に基づいて、この会議の議論をすべきであって、令和１５年以降に関してはあくまでも予想ですから、そこまで踏み込んでいいのかどうか。この予想をもとに話し合いをしてもいいものかどうか、というのは疑問に思います。
　名張市も人口を増やそうとしていて、桔梗が丘について言えば、大きな土地やったのが２つに割ったり３つに割ったりして、若い世代が増えてきている。桔梗が丘東小が２つクラスになったのも、人口というか若い世代が増えたわけですよね。そうことも踏まえて考えると、あくまでも、現実の目の前にある数字として、令和１４年までの６年間に関してを中心に考えていくべきじゃないかと思います。そのあとの４年間に関してはあくまでも予想ですから、ここまで踏み込んでいいものかというのが私の疑問です。１０年単位で、計画立てようというのはよく分かるのですが、そこまで踏み込んでいいのかなという気がします。

（事務局）ありがとうございます。あくまで令和１８年のクラス数を見込んでというわけではなく、この名張市が、子どもの数が減ってくることを見越して、子どものよりよい学校の在り方ということを考えていこうということであるので、この令和１８年のこの数だからどうするかということだけで進めるわけではないです。令和１８年のことを強く説明してしまったので、ここの数字がすごく強調されたんですけれども、あくまで子どもたちが減っていく、その中で、子どもの学びや望ましい教育環境をどうしていくのがいいのかということを議論で進めていけたらと思っています。

（委員長）ありがとうございます。

（副委員長）今おっしゃっていただいたこの令和１５年以降につきまして、令和１５年については、小１だけが推定、令和１６年は小１と小２が推定、令和１７年は小１、小２、小３が推定というふうに、まだ生まれていない子どもたちですので、今の 0 歳の数を元にしているということで、例えば令和１５年であったら、小２以上は実数ということで換算しているかと思いますので、まるまる推定ではないということで考えていかなければならないかと思います。

（委員長）ありがとうございます。先ほどもありましたけれども、別に子どもが１人で名張市に移住してくるわけではなくて、子育て世代の方々が家を求めてやってくる。また、家を求めて市内に移動する、定住するというのはそういうことかなと思いますので、子どもだけの数字だけじゃなくて、市内の傾向も含めつつ、これも実際、肌感覚で感じるのは、自分の世代というのはやはり子どもを持つことがすごく難しい世代かなっていうことは、自分も肌感覚で感じたりもしていて、子どもの数も減っている。まして減っていくんじゃないかという何か、私個人としてはすごく危機感を持って生きています。今日はここで何かを決めるということではなくて、様々な立場からいろいろなご意見を賜りまして、今後の議論につなげていきたいと、そういう場にしたいと思っておりますので、ぜひお感じのこと、ご発言いただけますと幸いです。

（委員）これはね、本会議とは関係ない話ですけれども、要は子育て環境、子ども支援、子どもが産みやすいような町。実際、名張市は産科がないんですよ。出産できる場所がなくなってしまって、子どもを産むにも他市へ行かなあかん。伊賀市に１ヶ所、森川医院やね。大きな病院でも産科がない。やはり常駐の専門医を置かなあかんようになるから、出産で何が起こるかわからへんから、非常にお金がかかるということ。例えば、市立病院にそういう産科を病棟に置いてもらえたらいいのだけど、病院自体が赤字になってきて、なかなか大変なことになっている。名張市は、まだ決まっていないけれども、多分来年から固定資産税がまた上がります。はっきり言って。そういう中で、子育て支援するにも、実際問題、住みやすい町とか、ここへ住んでみたいとか、子どもの育てやすい町と言っているけれども、現実面を考えたら、産科が全くないのは問題やし、やはり子どもや家族が定着しやすい環境を作っていかないと、こういった小学校、中学校の生徒数の減少に歯止めがかからないのでは。地域づくりの立場から言ったらそういうことです。

（委員長）ありがとうございます。どうぞ、お願いします。

（委員）少子化というか、人口が減っていくということについて、商工会議所は、消費者が減っていくという、その観点でいろいろなことをやろうとしていますが、なかなかうまくいっていない。名張市の人口が減っていくというのは、ご夫婦がもうける子どもさんの数というのは、ここ数十年変わっていません。２．１から１．９に下がったぐらい。ただし、結婚未婚率がかなり上がっています。生涯未婚率が、現在は、男性は３割、女性も２割を超えているんだろうと思います。日本は、この世に生まれてくる子どもさんの９８％を超えるお子さんが婚姻関係にある夫婦から生まれてきますので、婚姻数が減ると子どもの数が減ります。それは先ほど申し上げた件のところでも、一気に１５０人ぐらい減ったというのは、コロナ禍で婚姻が減ったので子どもの数が減ったというのが現実です。それと、移住定住、子育て支援をどうするのかというのは、これはどちらかというと社会増減に関わっているところでして、名張市はおそらく伊賀市との間では若干の流入超過ですので、働く場所は圧倒的に伊賀が多いんですけれども、住む場所として選ばれてきているというのが現実なのかなというふうに思っています。産業規模で言うと１次産業が２割に満たない。２次産業が２割５分、３次産業が約６割というのが、名張の実力です。なので、その人たちが名張で働いて、そこで、家庭を持って稼ごうかというには産業が弱すぎる、というのが、こ

れは商工会議所の、我々の分野ではあるんですけれども、ただ住むにはいいところというふうに評価されてるというのが、今の現状だと思います。なので、そこをどうしていくのか、子どもの数が減っているというのは、子どもをもうける世代の人口が減っているということに加えて、未婚化が進んでいるというのが一番大きな原因やというふうには思っています。

（委員長）ありがとうございます。本日は、学校の先生方もたくさん来ていただいていて、もしよろしければ、学校の先生のお立場から状況をお伝えいただけますと嬉しいです。はい、お願いします。

（委員）私は、３年間、津市の方へ交流人事で行ってまいりまして、津市で働いた小学校は、超極小規模校で、全校が２５人前後の学校でした。地域密着型の学校で、もう子どもたちの名前を地域の方も知っていて、愛されて、子どもは地域の宝と言っていただいて、子どもたちは、とても自己肯定感が高く、認知能力も高いことがよかったです。それから、少人数ですので、一人ひとりによく目が行き届きますので、学力の保障も、十分できていたかなということはありました。ただ、やはり、そんな小さな学校でしたので、ダイナミックな活動、合唱であるとか、ドッジボール、それから球技なんかができにくく、それから中学校に進学するときには大きなハードルがございました。小学校では一人ひとりの活動量がすごく大きいので、皆がリーダーになって、リーダーシップをとって、前へ立って、そういう活動がたくさんあったので、伸び伸びと、異年齢の中でリーダーシップをとっておりましたが、中学校に行って、大きな小学校と一緒になった時は、本当にその良かった力がどこへ行ったんだ、というようなことも実際にありました。そのギャップをなくすために、大きな学校と一緒に活動する時間を小学校のうちからたくさん取ったり、それも移動のことを地域の方にお願いしたり、保護者にお願いしたり、たくさんいろいろなハードルを乗り越えてまいりましたが、メリット・デメリット、それぞれに痛感してきました。そして名張に戻ってきて、今、名張小学校、大体４００人ぐらいで、クラスの中でも３５人とか３０人以上のクラスの中で、多様な考え方の中でもう本当にいろいろな考え方に触れながら、子どもたちが切磋琢磨しているというよさは感じております。ただ、反面、不登校の児童も多いです。それから外国籍の児童もだんだん増えています。ご指摘のあった特別支援学級の子どもも増えていて、教員の定数は決まっておりますので、そういう多様な子どもに対応する教員の負担というのは、とても大きいと感じている現状があります。私が今、働きながら感じている感想です。

（委員長）ありがとうございます。たくさん意見を出していただけると、今日はとてもいいのかなと思いますが、お願いいたします。

（委員）私は、高校なんですけれども、名張青峰高校も少子化の影響を受けていまして、１年生が１クラス減の５クラスで、２、３年生が６クラス。この規模より下回りたくないと思っています。いろいろな活動がですね、本校はもともと名張桔梗が丘高校と名張西高校が統合した学校で、その部活が全部あるんですけれども、その１つ１つの部活動の人数が減っていっています。もっと言うと部活も試合に出れるかどうか。これ以上減っていくと、やはり学校行事、体育祭だったり、文化祭だったりにも影響していくことが懸念されます。１０年ぐらい先にはかなり減っていくという予想をされているわけですけれども、京都大学の元総長の山極さんが、人類はもともと移動していたんだ、ということを書かれていた著書も

あるんですけれども、最近は、人は移動するのがいいなという著書がたくさんあるんです。私もそれは賛同していて、やはり人は動いていくというか、1 つのところに小さくまとまって、それはやりやすさとか、その中での密な人間関係ができるかわからないんですけれども、価値感がすごく狭められていたりとか、考え方もすごく狭い中で物事を考えていくようになってしまうと、いざ社会に飛び出した時や、中学校で人間関係であったり、高校でまたさらに大きな人間関係を築くときには、何ていうか、そこに適応できないという生徒も現実におります。なので、小学校は今まさに、そういう現実と向き合わなきゃいけない状況だと思うんですけれども。勝手なことを言うんですけれども、人数が減っていくのはとめられないんですけれども、名張市としての地域の良さというのはあると思います。そこにしかない価値というのはあると思います。何か１つの学校だけで考えると、どうしても統合とか、なんかそういう減らさなきゃいけないという発想になってくると思うんですけれども、人がうまく移動する仕組みを作っていけば、子どもたちもそれで救われる。ここではうまくいかなかったけれども、違うまた新たな出会いの中で、不登校だった子が救われたり、また新たなきっかけを作って、何か自分が輝いていくというか、若返っていく、そういう場面が出てくるのだと思います。なので、減っていくのは仕方ないんですけども、今後も含めて、人との交流がたくさんできるような機会を確保していくことが大事かなと思います。

（委員長）はい、ありがとうございます。その他にいかがでしょうか。よろしければ、次の議題も少子化を踏まえた子どもの学びと育ちということですので、（２）では、名張市全体の人口減少のことですが、学校の規模やクラスの人数等について、確認させていただいたのですが、より具体的に子どもの学びと育ちというところに特化して、次の議題が進んでいきますので、よろしければまず事務局にお願いさせていただいて、それも踏まえてまた議論ができればなというふうに思っております。いかがでしょうか。そしたら、（３）に入らせていただきます。

（３）少子化を踏まえた子どもの学びと育ちについて

（事務局）資料３について説明

（委員長）ありがとうございます。ただ今の件について、ご意見やご質問等がございましたらお願いいたします。もしまだ発言されていない方、よろしければお願いしたいです。名張の子どもたちはこんなふうに育って欲しいという、そういう思いや、それも１つの大きな方向性になるかなと思いますので、考えをお聞かせください。お願いいたします。

（委員）すいません、拝読したんですけれども。名張青峰高校ですけれども、私、昨年まで名張高校でいました。そこで、たくさん地域の方と交流をさせていただきました。そのことで、子どもたちは学校では得られない学びがありました。それをきっかけにですね、子ども自身が自分らで活動していく、それこそ主体的に、また、学校では知らないところでこんなことをしていた、というような生徒が育ってきたりですね、それは実感しました。名張青峰高校は、少し地域性という意味では山の上にあるんですけれども、やはりもっと地域と繋がらなければいけないな、というのが実感です。それは、高校生の場合は、次は進学であったりとか、就職だったりするんですけれども、それを選ぶときでも、名張市の良さというのをもっと知った上で進学とか、或いは就職とかを実際選んでいるのかというと、あんまり知らないのではと

思っています。名張市の良さとは何なのかというところ、名張市にはどんな企業があって、どんな起業家さんたちがいるのか。そういうことをもっと知って欲しい。それによって、なぜ勉強するのかということを逆に教えていただくということが、私は大事と思っていますので、そういう地域と協働するとか、地域と一緒になって何かを作り上げていくとか、そういうことがこれから求められているのではないかと思います。それが主体的に生きる力だと思いますし、名張の良さを知れば、自分はこういうふうなことで将来役に立ちたいと。だから、こういう大学、こういう専門学校に行く、こういう仕事についてこういう力をつけていく、という選択肢ができてくるのではないかと思っていますので、やはりそういう意味で、自分でしっかりと自分の進む道を決めていく、切り拓いていく生徒を育てたいなと思っています。

（委員長）ありがとうございます。いかがでしょうか。お願いします。

（委員）小学校で働いていて、自分はやはり子どもたちと関わっていく中で、自分の将来へどんなふうに進んでいくかというところをしっかり考えられる力をつけていきたいなと思っています。子どもたちと話していると、できないことをすぐ受け入れて諦めてしまうことが多く、無理とか、出来ないからやらへんみたいなことがあるんですけれども、できるようになってくると、すごく表情が輝いてきて、もうちょっとやりたいとか、これちょっとやったらできるから、もう簡単やしやる、みたいなことも言ってくれるんです。今、特別支援学級の子どもを見ていて、３年生と５年生を同時で授業するときがあるんですけど、やはり５年生が学習している姿を見て、３年生の子たちがこういうふうにやったらいいんやと、影響を受けているところがあったりして、やはり人との関わりというのは、とても大事だなと思っているところがあります。あんまりまとまっていないんですけれども、名張青峰高校の生徒さんが、今朝、自分の学校の門のところに立っていただいて、一緒に挨拶活動をしてもらっていることもあって、そういうところを子どもたちが見ると、高校生が来てくれてたとか、あんなふうに挨拶してくれているのが、なんかすごいな、私らもやりたいな、みたいなことで、委員会で立っている子どもたちも影響をもらったりして、そういうふうな関わり、やはり地域で作ってもらっている部分なのかなと思っているんです。今度また、英語の授業をしてくれるというということもあったりして、そういうふうな繋がり、この地域だからこそできる部分もあるのかなと思っています。自分は、教職員の代表の立場でいろいろな学校の話を聞いているんですけれども、複式学級は人数が少なくて、個別に十分に見れるという印象を持つことも多いんですけれども、例えば複式の１６人を見るときに、片方の学年が８人ぐらいいて、もう学年が８人いると、やはり、かける時間というのも半分になってしまったりとか、片方で授業をしたときに、もう片方はどうしても課題をさせないといけないことがあるので、４５分の授業、小学校でいうと約２０分ずつの授業になってしまったりとか、担任は２つの学年の教材の準備をしないといけないとか、そういう部分もあったりとかします。先ほどの人数とかを見るだけでも、令和１４年には２０人以上、３０人ぐらいの先生が、名張からいなくなってしまうのかなと思うと、そういったところでもいろいろな課題とかも見えてきて、今後すごく何か子どもたちのためにできることを考えていかないといけないというふうに、思わせてもらいました。

（委員長）ありがとうございます。先生の数というのも大きなポイントかな、と思います。

（副委員長）先生の数でいうと、規模が小さくなると、例えば、南中学校が４クラス、学年１クラスの規模になると、中学校においては学級数で教員数が決まりますので、本当に、４学級やったら７人くらいの教員になってしまいます。中学校は、技術家庭を分けると１０教科の先生が必要になってくる。そうしたときに、例えば、音楽は週１時間しかない、３学年で３時間しか授業をもたないことになる。そうしたときに、教員をどうしていくのかという課題もありますし、多様な子どもたちを育てていく、繋がりを作って、やはり生きがいを持って、主体的に学んでいくというような力をつけるには、やはりそれを支える教員が必要であると考えますと、やはりある一定の規模であったり、子どもたちが互いに支え合い、協力し合あう集団というのは必要になってくるのではないかと思います。

（委員長）ありがとうございます。その他にいかがでしょうか。もしよろしければ、保育所の立場からお願いします。

（委員）どの議題でお話すればいいのかちょっとわからないですが、小学校、中学校の学校という課題の中での話だと思うのですが、少子化というのは本当に現実的になってきていると感じます。今、１歳児からの受け入れをしている保育所ですけれども、今年度は１歳児がいないという状態でスタートしています。２歳児も４名、３歳児が７名、４歳児が１３名、５歳児が９名という形の３３名で運営をしているんですけれども。メリット・デメリットがあると小学校の先生がおっしゃたように、やはり保育所でも少ないがゆえに、年長児さんと年少児さんだったりとか、乳児のお子さんが繋がれるという機会は多く作ることができ、異年齢で集まって遊びましょう、という形で設定をしなくても、園庭の中で、例えば、小さいお子さんが車に乗っているのを後ろから年長児さんが押してあげるとか、それも力加減しながら怖くないように押してあげる、というような自然の姿は見られます。また、保育所の前に、市民センターがあったり、小学校があったりということで、本当に地域の中でも、関わりながら過ごさせてもらっているので、その連携が自然にできている地域かなと、恵まれているところがあります。市民センターの方が、保育所の園庭の畑を耕しに来てくれたりとか、そういうので親しみがあったりとか、いろいろな事を教えていただいたりとかの機会もあります。その反面、やはり５歳児は９名ということですので、９名なりの人間関係でしかないというところで、その中でも、昔に比べたら定例な発達というのがなかなかできにくくなっている現状があるので、やはり経験も少なかったりとか、兄弟が少なかったりとか、地域の子どもたちが少ないという現状もあるので、なかなか切磋琢磨しきれていないというところで、逆に新しい活動をするとすごく新鮮で楽しそうにするのだけれども、いろいろなお友だちとの関わりだったりという面では、学びが少ないかなというふうに感じます。人数にはよらないと思うので、人数が多かったら経験ができる、ということではないとは思うんですけれども、現実的な学びの少なさは感じています。

（委員長）ありがとうございます。

（委員）私は、小学校３年生と中学校２年生の子がいる母親からの立場からになりますが、自分は奈良で育って、結婚して名張に来たんですけれども、免許を持っていなくて、住みやすいかと言われたらすごく住みにくい、でも暮らしやすいかと言われたらすごく暮らしやすいです。先生方もそうですし、地域の人がとても優しくて。なので、今の子どもたちが結婚して、将来、大阪とか大きいところに働きに行っても、

結婚するなら名張に帰ってきたいなと思えるように、名張はいいんだよというところを、子どもたちにもっと教えていけたらなというふうに思っております。

（委員長）ありがとうございます。私は、もう１つ立場があって、三重県の社会教育委員をさせていただいていて、今年度から名張市の社会教育委員も務めさせていただきます。県の社会教育委員の会議の議論でよく伺うのは、名張市は、社会教育をとてもやっているということを聞かせていただきます。いつも先進的な事例を聞かせていただいて、地域との繋がりとかがすごく強くて、子どもたちの学びと育ちを支えるときに、今のお話もまさにそうかなと思いました。何かこう、学校が学校、そして単体であるわけではなくて、地域の中にちゃんと存在しているというのをすごくいつも感じるので、その辺もすごく、今後のことに関わってくるなと思って聞かせていただきました。子どもたちの学びと育ちという視点に立ったときにお感じのこと、本日はいろんな角度から伺っておりますけれども、他にいかがでしょうか。

（委員）ちょっと冒頭にも言わせていただいたんですけれども、今、この学校の在り方ということで、これから検討いただくんですけれども。これからの世の中、子どもらがこれから生きていく未来、予測困難と言われますけれども、本当に予測困難であると感じます。私は７０歳を過ぎておるんですけれども、自分の経験から、教師をしていたときから思っても、想像できないようなことが起きるかも分からないし、そこを生き抜いていく子どもらに、どんな力、少なくとも６年間と３年間の義務教育で、こんな力をつけていくことがということをきちんと踏まえて、そこからスタートしないと。名張は、地域にもすごく学校を支えてもらっているのですけれども、本当に限られた場所で、時間で、大規模校であれ、小規模校であれ、どんな教育をしていかないといけないのか、まずそこを見ていく、そしてどんな子どもを育てるのかなということをしっかり考えていく。社会もコロナ禍でリモートになったり、子どもらもタブレットを持ったりとか、教育環境もがらりと変わって、子どもら自身もいろいろな特性のある子がどんどん増えています。先ほどの特別支援学級もそうですけれども、きめ細かく、国際化の時代になって、もうこれは国の政策でもあるんですけれども。先生方も、その中で精一杯仕事をされていて、教職員の働き方改革、これもまた入ってくる中で、いろいろな条件や制約も出てくると思う。名張はお金も厳しい。名張のコミュニティ・スクールを始めるときに、東京の三鷹市の教育長さんがきてくれて、今まで、学校は閉鎖的であって、学校の先生の常識はもう社会の非常識と言われた時代もあったんですけれども、１部で今までの授業をやっていって、２部の午後はできるだけ地域の人との交流、家庭科室や音楽室を開放していって、毎時間できませんけれども、地域の方といろいろなこと、イベントとして料理を作ったり、音楽したりとか、そういう場、３部は地域の人が学べる場、市民センターとか、公民館がなくなりましたけれども、そういうところでやっている活動をどんどんどの学校も使って、社会がそのように変わってきて、どんどんやっておられるんですね。名張は、そこまでできるかどうかわかりませんけれども、一番大事なのは、先ほどからこう思っているんですけども、ＡＩが発達していくと、職業のいくつかがなくなっていって、格差が出てくるのではないか。そんな中、主体的に、子どもたちが心豊かに生きていこうと思うと、やはり人とのつながりが大事である。小学校１年生やったら１年生、中学校３年生やったら３年生、高校生は高校生なりに、自分自身で自分の存在と他人との関わりを持ち、それぞれの発達段階なりに自分の存在と他人との関わりを理解できる場をどれだけもてるか。教育の質と、そのための教育環境をどうするのかのところを、この会議でいろいろな話を聞かせていただき、吟味していけたらと考えています。令

和の日本型学校教育の文部科学省が出された文章の中でも、個別最適といわれているが、いろいろな特性を持っている子どもたちがたくさんいますから、それらの多様性を大事にできる社会にしていくために、その子たちにどう関わる体制をつくっていくかということ。もう１つは協働的ですので、人と関わって学ぶということで、この間も学校訪問に行かせていただいたら、２人で話したりとか、グループでやっているけれども、そういう中で自分がこうやと思っても、今までやったら発表できる子が発言して済んでしまったりとか、中学校やったら、発表せんでも、写しとって、分かって理解できたら点数とれるしとか、そういう時代ではなかなか生きにくいと。だから、人が言ったらそんな考え方もあるのかということをヒントに自分を見つめ直して、自分もまたその違う考え方を出していくし、１人の子の意見に対して乗っかって、いろいろな意見が出てくるような、協働的な学びという、そこを大事にするというのは、子どもは人との関わりで育っていくものですので。いろいろな関わりを持ちながら、やはり新しい発見であったり、喜びであったり、最終的にそのことが友だちへの感謝だとか、他人に対する敬意であったり、それがないと人との関わりを作っていきにくいと思うんです。社会に出ても。ありがたいことに名張は、地域が学校にずっと関わっていただいています。そういう中で、学校ではできない体験とか出会いもできるから、それが子どもにとっては社会なんですね。地域社会ですので、そこで、学校で学んだことを理解したり、地域の方と一緒になって、公園のごみ拾いしようとか何か地域貢献をやっていって、大工さんに入ってもらっていろいろなゴミ箱を作っていったり、アイデアを自分で出しながら、共にやっていくという体験を今進めていっていると思うんですけれども、そういうことにどんどん力を入れていって、子どもら自身が、他者と関わっていくことの意義というか、そのためには何が大事であるかとか、そんなことを小学校１年生は１年生なりに経験できる学習はどうしたらいいかということを先生方が頑張ってやっていただいて、小中一貫で９年間通して積み上げていこうということですので。その辺、どういう子どもをこれからの社会、世の中を生き抜いていくためにどういう力をまずつけなあかんのかな、というところもう一度考えていって、そのためには教育の質をどうしようかと考えていくことが必要であると思う。そのあとに、学校は小規模校であんまり人数が少なかったらあかんなとか、大きすぎて人数が多すぎてもとか、地域性を考えたところでどう配置したらいいのかがついてくると思いますので、そのあたりを、いろいろ聞かせていただけたらなと、感想ですけれども思いました。

（委員長）ありがとうございます。最初に、ご質問いただいた公共施設の複合化とか、その辺と重なる話なのかなと、その既存の公共施設と、それこそ学童さんとか挙げていただいたんですけれども、何か図書館とか、文化施設とか、いろいろな公共施設があって、それこそ公民館とか、社会教育関係のものもそうだと思うんですけれども、そうしたものとの繋がりも含めての議論が大事かなというふうに思いながら聞かせていただきました。ありがとうございました。時間がまいりました。まだ発言、質問されたいという方いらっしゃったら、よろしいでしょうか。それでは、次に移らせていただきます。審議機関と審議スケジュールということで、お願いいたします。

（４）審議会の進め方や今後のスケジュールについて

（事務局）資料４について説明

（委員長）ありがとうございます。今後のことについて、何かご質問等ございましたらお願いいたしま

す。

（委員）スケジュールは分かりましたけれども、会議の前に、資料を前もって送ってください。第２回においても、４つあって、いきなりこれ資料を見せられても、意見が出しにくいので。前もって資料をもらって、自分も読んで把握しておかないといけないので、よろしくお願いします。

（委員長）ありがとうございます。その他にいかがでしょうか。すいません、次回以降はもっと具体的な話になっていくのかと思います。今日はそれに向けて、たくさんご意見をいただきまして、ありがとうございました。その他になければ、事務局へお戻しさせていただきます。ありがとうございます。

（事務局）ありがとうございます。本日は本当にお忙しい中、お越しいただきまして、また委員の皆様から、本当にいろいろな立場から、活発なご意見をいただきましてありがとうございます。また委員長におかれましては、スムーズなご進行をいただきましてありがとうございました。次回につきましては、先ほど委員からもご意見をいただきましたが、資料等をまた用意させていただきまして、事前に送付させていただきまして、また活発なご意見の方をいただければと思います。

事務局から事務連絡をさせていただきます。第２回ですけれども、開催日時の方が、令和８年８月２７日木曜日、同じく午後２時から庁議室でさせていただきたいと思います。資料の方については、事前送付させていただきます。今回は、委員の委嘱の前ということでございまして、資料の送付はさせていただきませんでした。本日は、机の方に置かせていただくという形になってしまったんですけれども、事前に目を通しいただいて、お話いただけた方がより活発な議論をしていただけると思いますので、開催案内と、また資料の方につきましては事前送付という形でさせていただきます。それでは閉会にあたりまして、西山教育長よりごあいさつを申し上げます。

（教育長）失礼いたします。今皆様におかれましては本当にご熱心なご協議をいただきましてありがとうございました。

また、園部委員長におかれましては、本当にスムーズな進行をしていただき、ありがとうございました。名張市未来のよりよい学校の在り方検討審議会がスタートをしたわけでございまして、今日は名張市の将来の姿ということでご説明いただいた中で、本当にこういうふうになっていくのだということも、実感をいただいたのかなと感じさせていただいています。その中で、現在の少子化の流れなどを踏まえ、名張市の子どもたちにどんな学びをしていくのか、また学校がどんな姿になっていくのがいいのかというようなことも含めて、今後、様々な立場からご意見をいただければというふうに願っているところでございます。ありがとうございました。

（事務局）それではこれをもちまして、第１回目の未来のよりよい学校の在り方検討審議会の方を閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。